

医学部 医学科 カリキュラム・ポリシー

【教育内容・教育方法】

I. 医の倫理とプロフェッショナリズム

法令、規則を遵守し、安心、安全な医療を提供し、臨床倫理・研究倫理を尊重する人間性豊かな医療人になるために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 医療現場で必要となる医療関連法について教育を行う。
2. 初年次から継続的な医療安全教育を行う。
3. 継続的な医療倫理と研究倫理の教育を行う。
4. 医師としての高い倫理観を養うプロフェッショナリズム教育を行う。
5. ICT (Information and Communication Technology) や AI (Artificial Intelligence) の課題を認識し倫理的に正しく扱える能力を養う。

II. コミュニケーション

患者・家族、協働する医療スタッフおよびさまざまな医療資源と協調して、満足度の高い医療を提供する医師になるために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 1年次から継続的な医療コミュニケーション能力を養う。
2. 臨床現場での実習を通して、多職種と協働できる医療コミュニケーション能力を養う。
3. チーム基盤型学修 (TBL: Team-Based Learning) など問題解決型の能動的学修法を採用し、学生や教員と円滑なコミュニケーション能力を養う。
4. 国際的なコミュニケーションに必要な英語力を養う。

III. 医学の知識と技能

発展し続ける知識や医療技術の根源（人、生命の尊厳）を理解し、信頼される医師としてのスタートを切るために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 教養科目群および生命倫理、行動科学を含む導入科目群を通じて、人類の文化・社会・自然に関する知識を教育する。
2. 1年次から専門科目を導入し、基礎医学、臨床医学、社会医学に関する幅広い知識を教育する。
3. 基本的診療技能の学修を通じて、診療参加型臨床実習に向けての基礎を養う。
4. 診療参加型臨床実習を通じて、より実践的な診療能力を養う。

IV. 地域における医療と公衆衛生の実践

ローカルからグローバル、公衆衛生から医療までの関係性を理解し、全ての医療スタッフの立場を尊重して課題を解決する医師になるために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 初年次の早期医学体験（EME：Early Medical Exposure）に始まり、段階的に地域医療の現場を体験し、地域医療関連授業および診療参加型臨床実習を通じて、地域医療への関心を育む。
2. 国際的健康や医療の観点を持って、地域の医療と公衆衛生の課題を見出す能力を養う。
3. 医療と公衆衛生の課題を解析し、解決に向けた方策を提案し、地域に貢献する姿勢を育む。

V. 真理の探究

探究すべき課題に意欲や関心を示し、論理的・統合的に解決する能力を身に着けた医師になるために、以下のカリキュラムを設定する。

1. 基礎医学、臨床医学、社会医学を水平的および垂直的に統合する力を養い、科学的根拠に基づく、分析的、批判的思考力を身につける。
2. 基礎医学科目の実習、先端医療学コースやリサーチコースを通じて、自ら探究すべき課題を見つけ、解決に向けて取り組む姿勢を育む。
3. 基礎医学、臨床医学、社会医学の統合的学修を通じて、自らの考えを論理的かつ明確に表現し、議論する能力を養う。

【教育評価】

1. 学年末における科目毎の単位認定、参加型臨床実習前に行われる全国共通の医療系大学間共用試験 OSCE（Objective Structured Clinical Examination）、CBT（Computer-Based Testing）および卒業試験等の指標に基づいて総括的評価を行う。
2. GPA（Grade Point Average）、能動的学習のピア評価、個人面談、臨床実習現場などでの形成的評価を行い、細やかな指導に務める。
3. 医学教育 IR 室の分析に基づき、カリキュラムの評価を行う。

医学部 看護学科 カリキュラム・ポリシー

看護学科のカリキュラムは、看護の基盤となる幅広い教養や豊かな人間性と倫理観に基づき、専門的な知識や技術を統合し、多様な価値観を持つあらゆる健康レベルの対象者に対して臨床判断を行い、看護を実践できる能力を身につけることを目指します。

カリキュラムは、系統的に学修が出来るようカリキュラム全体の構造を学問領域でグルーピングした複数の「系」で表現し、医療基盤系、看護関連の専門知識・技術を修得するための基礎看護学系・地域在宅看護学系・臨床看護学系・統合看護学系、国際的な視野と知識を修得するための国際看護学系で構成されています。また、保健師国家試験受験資格を取得するために必要な公衆衛生看護学系及び養護教諭一種免許状を取得するために必要な学校保健学系があります。

【教育内容】

1. **医療基盤系**は、社会人と医療人の基盤となる豊かな人間性と倫理感性を育み、問題解決が必要な場面で根拠に基づき取り組む能力を育成するために、全学の共通教育科目である導入科目群と教養科目群で構成されています。
2. **基礎看護学系**では、健康レベルの理解と健康支援に必要な社会制度、看護の原理となる知識や生活支援に必要な基礎的な技術を体系的に学ぶ科目を配置しています。
3. **地域在宅看護学系**では、地域で生活する人々の健康の保持増進を目的として、生活を支えるために必要な看護の知識と技術を学ぶ科目で構成し、在宅看護学などの科目を配置しています。
4. **臨床看護学系**では、生命の誕生から死に至るライフサイクルに応じて必要な看護の知識と技術を学ぶ科目で構成し、成人看護学、高齢者看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の科目を配置しています。
5. **国際看護学系**では、多様な文化を理解し、グローバルな視点で国際的な看護活動ができるように、外国語や国際活動に関する科目を配置しています。
6. **統合看護学系**では、各科目系の学びを統合した高度な専門性をもって、医療チームの一員としての役割発揮ができるよう、統合看護分野の科目を配置しています。また、看護研究、卒業研究、災害看護、英語文献にふれる科目を配置しています。
7. **公衆衛生看護学コース**では、上記1～6に加えて、**公衆衛生看護学系**として、社会の多様な健康課題に対応できる保健師の育成を目指し、保健師国家試験受験資格取得に必要な科目を配置しています。
8. **看護学コース**では、上記1～6に加えて、**学校保健学系**として、学校教育及び児童生徒理解を基盤とした健康課題についての知識と技術を学び、養護教諭一種免許状取得に必要な科目を配置しています。

【教育方法】

1. 主体的に学ぶ力と協働力を高めるために、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施します。
2. キャリア形成する力を自ら養うため、2年次終了時に学生個々のニーズに合わせて、看護師になるためのコース（看護学コース）、看護師に加え保健師になるためのコース（公衆衛生看護学コース：選抜あり）を選択し、3年次からいずれかのコースに所属します。
3. 教育内容に示した8つの系の各学問領域について、4年間を通して看護専門職としての基礎的能力の育成を重視した教育方法を展開します。

1年次より、グループで協力して課題に取り組む機会を多く持ち、附属病院外来や病棟で患者に接する授業や看護の基礎技術を学ぶ講義・演習を実施します。両コースともに、2年次、3年次では看護の専門的な知識の学修と技術の習得を行い、さらに臨地の看護実習で実践能力を身につけます。4年次の統合看護実習では、対象者の健康上の問題解決・課題達成に向け、既習の技術・知識を統合しながら多重課題に取り組み、実践する力を身につけます。さらに、看護マネジメントの実際を理解し、医療チームの一員として果たすべき役割について考察します。また、看護研究を通して課題探求に取り組み、専門職としての知識の蓄積と探求を行う方法を身につけます。
4. 1年次から地域と附属病院での臨地の実習を配置し、多様性と複雑性に対応し、多職種と連携した実践力の育成を行います。小グループ編成で展開し、チーム内の協働・連携の重要性を実践的に理解できるように進めます。個別目標の設定等自主的な取り組みを行い、指導教員及び臨地指導者から、看護ケアの場面で助言を受けながら学修を深めます。

【教育評価】

1. 1年次、3年次にディプロマ・ポリシーの到達度評価の一環として外部アセスメントを実施し、社会で求められる「協働する力」、「自己管理力」及び「批判的思考力」などの力を評価します。
2. 学年末における科目ごとの単位認定や、学生の学業成績を評価する方法の1つとして、GPA（Grade Point Average）を用います。
3. 本学は、学生に身につけてほしい能力である「10＋1の能力」を定めています。学生はこの能力についてセルフアセスメントを行います。「対人：他者との関係性を築く力」、「対自己：自己をコントロールする力」、「対課題：課題を解決する力」の3つのカテゴリーに分類された10の能力と、これらの能力を発揮して、周囲の人や社会に働きかける力「統合・働きかけ」で構成されています。
4. 上記の外部アセスメントや学生のセルフアセスメント、授業アンケート及び学生の面接等の結果に基づいて、カリキュラムを評価・改善します。
5. 学生の学びの満足度を把握するための「前年度看護学教育についての評価アンケート」を年度初めに各学年に対し実施し、教育改善の状況进行评估します。

6. 「成績評価分布の状況と分析」を定期的実施し、成績分布の妥当について検討します。
7. 卒業時調査を実施し、ディプロマ・ポリシーの到達度評価とします。